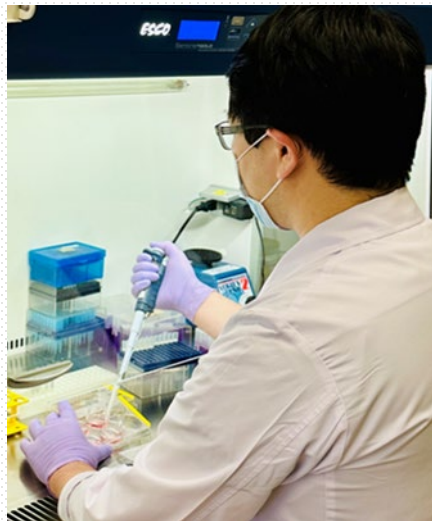


01 横浜市立大学 大学院 医学研究科 医科学専攻

大島 聡人 さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

非常勤で生活費を稼ぎながら研究活動も並行して行っていくことは、労力的にも時間的にも厳しい面があります。本奨学金をいただいたことによって、研究活動により集中してエネルギーを注ぐことが可能になると思います。

また、関連する学会に出席する時間と費用も賄うことが可能になりますので、より優れた研究成果に繋がられるよう活用したいと思います。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

小学生の頃から脳の機能に不思議な魅力を感じていたことが医学部に進学したきっかけです。医学部入学後は、脳の解剖生理や脳疾患にますます興味が深まり、自分の手で脳を手術して治療を行うことができる脳神経外科学を専攻しました。

現在の医学では悪性脳腫瘍の治療法に限界があり、改めて研究の必要性を認識したため大学院で研究活動を行っています。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

悪性脳腫瘍分野における臨床と研究の架け橋となるトランスレーショナル研究に取り組んでおり、研究成果そのものが臨床と密接に関わっています。

加えて、研究活動を通じて涵養された俯瞰的な視点を実臨床に還元し、研究成果も継続的に発信していきたいと考えています。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

医学には未解決問題が無数にあります。問題解決のために協力してくれる仲間が一人でも増えてくれたら嬉しく思います。

02 横浜市立大学 大学院 医学研究科 医科学専攻

水野 雄斗 さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

奨学金を受給させていただいたことで、より研究に専念できると考えております。大学院生として勉強や研究に専念したいと常々思っていますが、生活のためにバイトをせざるを得ない状況があります。貴重な研究に取り組む時間をバイトなどに回さなければいけないのは本意ではありません。また実験は複数の日程にわたり連続的に行われることも多く、バイトがあることによって、実験を組むのに支障がでてしまうこともあります。奨学金をいただけたことで、その分バイトを減らすことでより充実した研究生活がおけると確信しています。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

医療分野には高校生のころから興味がありました。医師という仕事は、多くのひとに役に立つ仕事ですし、学問としての生物学にも興味がありました。たとえば人は37兆個という想像もつかないような膨大な数の細胞で構成されています。これほどの数の細胞がそれぞれの機能を持ち、お互いに相互作用することで、生命を維持しているのはとても神秘的なことだと思います。その複雑極まりない生命現象の一部を自分の研究で解明できたらいいなと思っています。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

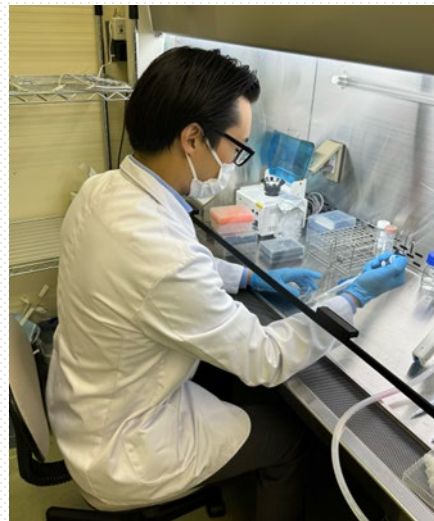
現在は、がんの治療の研究をしています。がんの治療は免疫療法が登場したことにより革命的な発展をとげました。しかし、それでも効かない患者さんも多く課題が残っています。ぼくはそのメカニズムの解明に挑戦しています。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

研究は大変さや難しさもありますが、世の中でまだわかっていないことを明らかにするのは楽しいですよ！

03 東海大学 医学部 医学科

K. I. さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

医学部医学科は講義予定がタイトでありテストも多い為、中々アルバイトに時間を割くことが困難です。本奨学金を受給することで学生生活に必要な金銭や備品購入の心配が不要になり、限られた時間を有効利用することが可能となります。

医学部の勉強に集中して取り組める他、現在取り組んでいる基礎医学分野の研究に集中して取り組むことで、より一層医学知識を深め、研究に邁進できることを期待しております。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

医師を目指した理由は、1つ目に海外での生活や出張が多かった為、慣れない環境で体調を崩すこともあり、その度に現地の医師に助けをもらうことが多く、医師への憧れがあったことが挙げられます。2つ目に、企業ですと経済合理性や技術力の制約があるなか、医師は自らが身につけた知識を、責任をもって活用することで、より直接的な個人への貢献度が高く、不安を抱える方々の支えやサポートになれると考えたからです。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

私は現在、医学部医学科での勉強の他に、基礎研究として癌細胞特異的な遺伝子メカニズムの解明に取り組んでいます。日本における死因のトップは悪性新生物であり、今後も増えることが予想されるため悪性腫瘍の治療は社会的にも大変意義があります。

医師としてがん遺伝子の解明とがん遺伝子を標的とした創薬への応用・新たな治療戦略の確立することで、悪性腫瘍の根治を目指し、より多くの命を救い医療・医療基礎研究の発展に貢献したいと考えております。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

医学部医学科の臨床医学、基礎医学、実習と勉強量は非常に多く、試験のプレッシャーもあり大変だと思います。その際、モチベーションとなるのは好奇心と自分が目指す医師像だと思います。色々なことに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢があれば、自分の好きな医学を見つけることができ学生生活・課外活動も苦にならないと思いますので、ぜひ頑張ってください。

04 聖マリアンナ医科大学 医学部 医学科

M. A.さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

奨学金受給前は日々実習をしながら週3日アルバイトをし、時間の余裕がない中、国家試験の勉強や初期研修病院の就活、親の介護、医籍登録や模試にかかるお金などさまざまな不安を抱えながら生活していましたが、本奨学金の給付を受けることで金銭的な不安とアルバイトによる時間的余裕のなさが解消され、勉強により一層集中することができています。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

身近に看護師がいたこともあり、医療従事者に漠然とした憧れがありました。医師を目指した大きなきっかけは親の病気で、医師という仕事は、病気で苦しむ患者さんはもちろん、患者さんの病気によって日常生活に大きな影響を受けている家族までもを救うことができる職業だということを知り、患者さんとその家族に寄り添って救うことができる医師になりたいと志すようになりました。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

まだ具体的な志望科は決めてはいませんが、外科分野に興味があるため、これまで学んできたことと自らの手先の器用さを活かして、多くの患者さんとその家族を身体的にも精神的にも救いたいと考えています。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

授業や実験、解剖、実習などを通して、ほかの分野の大学生では経験できないようなさまざまな経験を通して日々医学を学ぶことができます。頑張ってください。